星溪園

熊谷市
熊谷市教育委員会
熊谷市郷土会

星溪の由來

当園は往時『玉の池』と称した。元和九年（三三〇年前）荒川氾濫して桜堤（北条堤ともいった）が決潰したために出来たのである。湧き出る水が玉のように清らかなので此の名がついた。石上寺に接していたので後には『石上寺の池』とも称した。

慶応年間竹井澹如翁が此所に別邸を営み、庭園を造り、珍木奇竹を植え、名石を布置し、池亭を設けて景観を添えたので池亭と称するようになった。

明治十七年八月八日には時の皇后の宮御小休みがあり、次いで大正十年九月十六日には秩父宮御宿泊があらせられ又大隈重信、徳富蘇峰等著名の士の来遊するものが多く今も日々其の跡をたゝない。

昭和二十五年市の所有となり今日に及んだ。

星川

星溪に湧き出る水は溢れて星川の源をなし、街の南部を東に直流すること約二・五粁兩岸の柳と桜はそれ〳〵清流に映じて美観を増し新名所となつている。

佐谷田、平戸を経て行田市に入り東流して見沼用水に注いでいる。

園内の施設

園内総面積　九八一坪七四　　泉池　三〇九坪

建物　七七坪五（五棟）

◎星溪寮は十二室あって玄関入口には澹如翁書の『晴好雨奇別乾坤』と刻した木彫額があり、八疊の客室には塩谷踵直の書軸、藤森大雅の『清慎勤』の書額、古賀精里筆『閑情小趣』の扁額がある。

庭前には『振袖石』『天柱石』がある。之れは加藤清正が朝鮮より持ち来って豊臣秀吉に献じたもので大阪城にあったが、忍城主松平忠吉が貰い受け、後澹如翁の手に渡ったものである。

◎松風庵は二室よりなって澹如翁書『松風庵』の木彫額がある。

◎積翠閣は昭和五年澹如翁の後嗣耕一郎翁の餘生を送られた庵室である。

◎星溪園記碑　園記は耕一郎翁の撰文で酒井天外の書である。文中小野湖山の詩左記がある。

後園寛矣好優遊　家在中山駅路頭
布置亭台都瀟洒　乱栽花竹補清幽
曾経高館留鸞駕　又見雛門邀貴侯
最是天然難尋處　湧泉碧護可浮舟

竹井澹如翁

竹井家は天正年間より此の地に定住し代々本陣となり宿政に尽された。

澹如翁は天保十年十二月に生れ本名を萬平といい、幽谷と号した。維新の元勲木戸、陸奥、後藤、品川等の諸公と交りを深くし殊に晩年渋沢栄一翁と交誼を厚くした。

明治十二年初代県会議長に挙げられ、ついで政府の顕職に勧奨されたが郷に帰って専ら郷土の開発に尽瘁された。

大正元年八月七十四才を以って歿せられた。遺業の主なるものは次の如くである。

熊谷県庁の設置、熊谷堤修築と栽桜、養蚕業の開拓、中等学校の創設、学生誘掖会設立、熊谷寺本堂再建

（昭和二十九年九月　高木みき記）